

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-134	20-010	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名（原題／訳）		
Associations between Gender, Alcohol Use and Negative Consequences among Korean College Students: A National Study 性別・飲酒の悪影響：韓国大学生の全国調査		
執筆者		
Allen Rose P, Erik Schuckman H, Oh SS, Park EC.		
掲載誌		
Int J Environ Res Public Health. 2020 Jul 18;17(14):5192. doi: 10.3390/ijerph17145192.		
キーワード	PMID	
飲酒、大学生、悪影響、韓国、ジェンダー	32708392	
要 旨		
<p>目的： 韓国の大学生における、飲酒に起因するさまざまな悪影響の割合と深刻さ、およびその問題に影響を与える固有の要因を調査する。</p> <p>方法： 2017年韓国教育開発研究所（KEDI）が韓国の4年生大学とリベラルアーツ機関の学生7278人を対象に対面調査を実施し、有効な回答が得られた学生4803人を分析対象とした。アルコール8gを標準飲酒と定義して、アルコール使用障害識別テスト-消費（AUDIT-C）により飲酒量を評価し、学生を非飲酒者（AUDIT-C=0）、軽度飲酒者（AUDIT-C=1~4）、中等度飲酒者（AUDIT-C=5~8）、多量飲酒者（AUDIT-C=9~12）に分類した。飲酒に起因する悪影響（21項目）は、自己申告により得た。ステップワイズ回帰、多変量線形回帰、MANOVAテストを使用し性別に分析した。</p> <p>結果： 年齢の中央値は21歳（18~60歳）、2447人（51%）が女性であった。過去12か月間の飲酒者は男性よりも女性で11.5%少なく（AUDIT-Cスコア $\mu = 6.0$ vs 6.7）、非飲酒者の割合は男性よりも女性で高かった（4.6% vs 5.1%）。しかし、女性は男性よりも11.8%多くの飲酒に関連するネガティブな経験をした（$\mu = 1.9$ vs 1.7）。自己申告率も性別によって異なっていた。</p> <p>結論： 若い女性は飲酒頻度や消費量の多い男性に比較し、飲酒に起因する悪影響を受けやすいことを示した。韓国の大学におけるアルコール予防は、女性と男性で異なるアプローチが効果的かもしれない。</p>		